4. 歯周組織の治癒に関与する細菌学的因子の検討

○村岡 宏祐・内藤 徹・久保田浩三・横田 誠
九歯大・保存2

歯周病は、細菌性プラークなどの局所的な因子と全身的な因子からなる多重因子の関与した疾患だとされている。喫煙習慣や加齢などの全身的な因子は、歯周疾患のリスクファクターとして関与していることが報告されている。しかし、歯周ポケットの減少のような限局的な歯周組織の治癒にはより局所的な因子が関与すると思われることから、今回プロービングデプス (PPD) と細菌学的因子との関係を検討することとした。当科を受診した患者のうち、DNA プローブ法によって歯周病原性細菌の定量を行った 42 名を分析対象とした。初診時に採得した臨床パラメーターは、PPD、アタッチメントレベルなどで、これらは初期治療後にも採得した。初診時の PPD を目的変数とした単回帰分析では、*P. i.*, *P. g.* の量と正の相関が認められたものの、*A. a.* とは相関は認められず、初診時の PPD には *A. a.* の関与は少ないようであった。また、初期治療後の PPD の減少量と細菌学的因子も同様な関係を示したが、重回帰モデルによる分析では、PPD の減少量に統計学的に有意に関係しているのは、初診時の PPD と動揺度であり、細菌学的因子の関与は軽微であると思われた。

The relationship between the healing response of periodontal tissue following initial therapy

Kosuke Muraoka, Toru Naito, Kohzoh Kubota and Makoto Yokota (Department of Periodontology and Endodontology, Kyushu Dental College)

The purpose of the present study was the determine the factors influencing the healing response of periodontal tissue. Clinical parameter, such as PPD, probing attachment level, bleeding on probing, were measured at the initial examination and at the reevaluation after initial therapy. Initial therapy was mainly consisted of plaque control and scaling/ root planning. Microbial analysis was performed against *P. i.*, *P. g.*, *A. a.*, *E. c.*, *C. r.*, *B. f.*, *T. d* and *F. n.* with DNA probe method at the initial examination. Univariate regression analysis showed positive correlation between *P. i./ P. g.* and PPD. When the multivariate regression model was employed, initial PPD and mobility was only the significant variate to describe the PPD reduction after initial therapy. Microbial factors may not be important for the severity of the periodontitis.

5. ラット三叉神経運動核におけるニューロトロフィンとそのレセプターの発現について

○河岸 重則・吉野 賢一・増田 義子・柳瀬 益正・天野仁一郎
九歯大・口科

ニューロンの生存、発育分化およびシナプス伝達効率は多くの内因性あるいは標的組織由来の神経栄養因子によって調節されていると考えられている。ニューロトロフィン (NT) ファミリーはそのような因子の最も有力な候補である。本実験ではラットの三叉神経運動核ニューロンにおける、NT ファミリーメンバーの BDNF と NT-3 および NT のチロシンキナーゼ受容体 TrkA, TrkB, TrkC の発現を免疫組織化学的手法を用いて調べた。授乳期及び 10 週齢のラットを心灌流固定し、脳幹の凍結連続切片を作製した。切片をそれぞれの抗原に対するウサギ由来の抗血清あるいはアフィニティー精製ポリクローナル抗体と反応し、アビジン-ビオチン化 HRP を用いる方法で染色を施した。三叉神経運動核には、BDNF, NT-3 とそれぞれの受容体である TrkB と TrkC の免疫反応性が認められ、三叉神経運動核ニューロンの生存や機能調節に NT が関与していることが示唆された。

Expression of neurotrophins and their receptors in the rat trigeminal motor nucleus

Shigenori Kawagishi, Kenichi Yoshino, Yoshiko Masuda, Yoshimasa Yanase and Niichiro Amano (Department of Oral Neuroscience, Kyushu Dental College)

Neuronal survival, differentiation and synaptic transmission efficiency are thought to be regulated by many endogenous and/or target-derived neurotrophic factors. The neurotrophin family is one of the most probable candidates for such factors. Expression of neurotrophins, BDNF and NT-3 and their tyrosine kinase receptors, trk A, trk B and trk C in the rat trigeminal motor nucleus were